

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
オリンピック・パラリンピック教育推進校

事業実施報告書

学校名【 横浜市立 市場中学校 】

1 実践テーマ	【スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築】
2 実施対象者	全校生徒対象（594名）
3 展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（ 道徳、特活、総合 ） ② 行事名（ 朝会、体育祭 ） ③ その他（ 学校だより ）
4 目 標 （ねらい）	○グローバルな視点を持ち、多様なスポーツとの関わりへの理解や多様性を認める態度を育みたい。その実践として、協働することの価値に対する意識を高め、社会参画力の向上を図りたい。
5 取組内容	○「朝会」や「体育祭」などの機会を捉えて、次のような内容について、全校生徒を対象に話をした。 ・オリパラ教育推進校としての取組みについて（ねらい、実践内容等） ・スポーツの多様な関わり ・オリパラの意義 ○「学校だより」を通して、朝会や体育祭等で話した内容（上記）やパラリンピアンを招いた行事（下記）等について、保護者・地域を対象に広く発信した。 ○オリパラ教育の推進を強く印象付けるために、パラリンピアンを招いて、次のような内容で「オリパラ教室（講話・実演）」を開催した。全校生徒を対象に、加えて保護者にも案内を配付した。 <1 目 的> スポーツへの価値への理解を深め、規範意識の涵養、国際・異文化理解、共生社会への理解等、多面的な教育的な価値を学ぶ機会とする。特に「共生」をメインテーマとし、東京 2020 のメッセージでもある「Unity in Diversity ～みんなの輝き、つなげていこう～」も関連付け、オリパラ教育推進校としての取組みを充実・推進する契機とする。 <2 内 容> ・講演、デモンストレーション（1 時間） 講師：根木慎志 氏（車いすバスケットボール元日本代表キャプテン） ・振り返り「講師へのメッセージ」

	 ○オリパラ教室（上記）の事前学習として、パラリンピック教育教材「I'm POSSIBLE」を活用して、「パラリンピックについて学ぼう」について、全校生徒を対象に各学級で指導を展開した。 ○校内随所に、オリパラ大会やオリパラ推進校に関する掲示物を掲示した。
6 主な成果	○スポーツの多様な関わりや共生等につて意識が高まった。 上記に様な取組により、オリパラに関わる事項に触れる機会が増え、スポーツの多様な関わりや共生等につて意識が高まったと感じている。 特にパラリンピアンを招いた行事では、講師へのメッセージを熱心に記入している様子からも、本校のメインテーマである「共生・協働」について強く印象付けることができたと感じている。 また行事を通して「協働」実感できている場面が数多くあった。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	○周知 まずは「知る」ということにポイントを置き、機会を捉えて「オリパラ」「共生・協働」に関する話をしたり、関連資料を校内に掲示したりした。 保護者・地域に対しても広く発信するよう心掛けた。 ○印象 強く印象付けるために、パラリンピアンを招いた行事を開催し、保護者にもお知らせを出した。
8 主な課題等	○今年度は広く周知を図ることにポイントとして取組み、一定の成果を得ることができたと感じている。一方、拡散してしまう傾向もあり、明確な指標を示すことが難しい。 教育全般について言われることであるが、明確な指標というよりも意識の醸成として、継続的に取組むことが肝要であり、オリパラ教育としてはレガシーを意識した検討・実践を進めたい。
9 来年度以降の実施予定	○レガシーを意識した持続可能な取組 今年度はオリパラ教育初年度として、周知や印象にポイントを置いたが、次年度からはレガシーを意識した持続可能な取組を展開したい。 具体的にはボッチャに取組みたいと考えている。ボッチャはパラリンピック公式種目であり、オリパラへの関心の高まりも期待できる。また競技者として、障害者はもとより高齢者も参加している人が多くあり、鶴見区では区大会も開催されている。学校と地域と交流のツールになるとことも考えられる。横浜障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」と連携し、上記取組を推進していきたい。 今年度お招きした根木様の講演は子どもたちに大きな印象として残っており、是非このつながりを大切に、継続的な教育活動となるよう検討を進めていきたい。